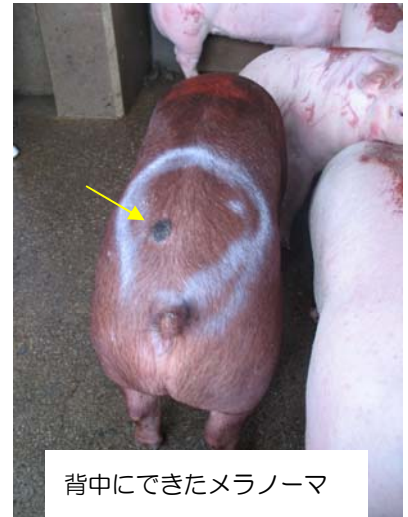


と畜検査で発見される病気

豚編 No2 黒色腫

☆ どんな病気ですか？

黒色腫(メラノーマ)はメラニン形成細胞由来の腫瘍で紫外線や機械的刺激により、主に皮膚に発生します。子供のころほくろが癌になるといった話を聞いた人もいると思いますが、これは黒色腫のことをいっています。黒色腫はかなり悪性度の高い腫瘍で予後はよくないようです。競馬好きの人ならご存知かもしれませんが競走馬シービークロスもこの病気で亡くなったようです。もちろん人にも発生します、手や足に押したら痛みのある大きいホクロのようなものができたらメラノーマの可能性が高いので、病院に行きましょう！！



☆ 豚の黒色腫

豚では特に有色系統(黒や茶色の豚デュロック種やハンプシャー種)に好発するという、遺伝的要因が指摘されています。黒色腫はリンパ行性、血行性の転移傾向が極めて強く、原発巣の皮膚から体幹や臓器のリンパ節へ転移しさらに進行すると筋肉や臓器に転移します。



☆ メラノシス(色素沈着症)との鑑別

メラノシスとは黒色腫と同じように黒色病変がみられる病気です。両者は組織学的に腫瘍と色素沈着症という観点から大きな違いがありますが、肉眼での判別は困難ですので、病理的な検査で判断することになります。

メラノーマとメラノシスは肉眼での判断は難しいの



☆ メラノーマの病理組織所見

メラノーマの腫瘍細胞は大小不同で紡錘形、円形及び多角形とさまざまで、配列も巣状、網目状と不規則で、細胞質内に黒色～褐色のメラニン色素を含んでいます。核はメラニン色素で見えにくいので、過マンガン酸カリ―シュウ酸法で漂白(黒い色素を消す)してから観察します。

